

町 長	副町長	教育長	課 長	主 幹	スタッフ	合 議
						教育振興課 学校給食センター



令和4年度第1回  
上富良野町総合教育会議 会議録



令和4年10月28日

## 令和4年度第1回上富良野町総合教育会議会議録

1 開催日時 令和4年10月28日(金)

2 開催場所 上富良野町役場3階第2会議室

3 出席した者 構成員(6名)

・上富良野町長	齊藤 繁
・上富良野町教育委員会教育長	鈴木 真弓
・上富良野町教育委員会委員	三熊 邦彦
・上富良野町教育委員会委員	久保 麻子
・上富良野町教育委員会委員	四釜 充啓
・上富良野町教育委員会委員	林 憲億

事務局他(7名)

・総務課長	北川 徳幸
・総務課総務班主幹	谷 昌春
・総務課総務班主事	大井 隆治
・教育振興課長	谷口 裕二
・教育振興課学校教育班主幹	安井 民子
・教育振興課社会教育班主幹	村上 弘記
・教育振興課心の教育担当主幹	松田 剛

欠席した者 事務局他(1名)

・上富良野学校給食センター長	岩崎 昌治
----------------	-------

4 協議事件 (1) いじめ・不登校問題について  
(2) 教育支援センターの設置について  
(3) 部活動の地域移行について  
(4) 給食センターの今後の運営について

5 開会宣言 13時50分

6 町長あいさつ お忙しい中、出席いただきありがとうございます。町長と教育委員会の皆さんと教育行政について語り合う場ということで、本年度は4つの議題を挙げさせていただいております。限られた時間の中で意見交換させていただき、今後の教育行政について教育長を中心に進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

7 協議事件の要旨 次のとおり

発言者	協議事件の要旨及び内容
教育振興課長	<p>いじめ・不登校問題について資料1に基づき説明。</p> <p>まず、いじめアンケートについて、本町の小・中学生を対象に年2回実施しているところがございます。これにつきまして、①で「あなたはこの4月から今まで嫌な思いをしたことがありますか」という設問があり、令和3年度においては、対象479名の児童のうち27.1%が「ある」と回答しております。この設問の回答については、年々増加傾向でございます。回答した内数についてはお示ししておりませんが、小学生の低学年が多くを占めております。設問②は「どんなことをされましたか」ということで、いくつかの選択肢に対してそれぞれ回答率を載せております。③の設問は、「②のことで、今も嫌な思いをしていますか」ということで「している」と回答している児童が11.9%となっております。こちらも年々増加しております。</p> <p>中学生になりますと、①の「嫌な思いをしたことがありますか」という設問に対して、令和3年度において「ある」と回答した生徒は2%であります。対象の生徒が245人ですので、5名程の回答ということになります。</p> <p>次に上富良野町不登校児童生徒数の推移につきまして、令和3年度においては、小学校においては7人、中学校1年が7人、2年生が8人、3年生が10人となっております。特に平成30年度以後、不登校児童生徒数が増えてきているところです。背景としまして、「ゆとり教育」が終わり、平成23年度から「脱ゆとり教育」が始まり、授業時数が大きく増加しております。また、近年小学校において「外国語活動」が創設されたことに伴い、時数が増えているところです。更に進級する時点においても学年が上がるにつれて、増加傾向が見られます。</p>
町長	<p>いじめ・不登校問題については、昔からある難しい問題です。最近では、旭川での問題を皆さんご存知かと思いますが、あのような残念なことも起こり得ます。また、いじめが原因で不登校になるというケースもなくはないと思いますので、従前から対応されているかと思いますが、町長としても教育委員会で更に細かな対応をと考えております。これについて皆さんからご意見を賜りたいと思います。</p>
久保委員	<p>いじめが原因で不登校の方は何名くらいいらっしゃるのですか。</p>
教育振興課長	<p>令和3年度までですと、学校側が確認する中で、いじめが原因の不登校はありません。</p>
林委員	<p>今朝、NHKの情報番組で取り上げられており、全国的にも急増しているということでした。資料中の表では、令和2年、3年度に増えているようですが、</p>

町長	<p>番組の中で、「やはり新型コロナの影響があるのではないか」ということで、社会に対しての不安だとか、学校へ行くことが少なくなり、家で落ち着いてしまうような形もあるのではないかと思った次第です。</p> <p>コロナの影響もあるかもしれませんが、その辺りについての情報はありますか。</p>
教育振興課長	<p>令和2年、3年度においては、コロナの関係で特に学校が学級閉鎖や休校により、自宅等にいる機会も増えたりと、子ども同士での活動が制限されております。学校や家庭生活において、人との交流が少なくなっているといった部分も背景として考えられると思います。</p>
町長	<p>他にはございますか。</p>
四釜委員	<p>アンケートの結果について、嫌な思いをした際に相談する相手というのは、小学生も中学生も特に親に相談することと思いますが、実際に子どもから受けた相談を親が学校に持ちかけるという繋がりはあるのでしょうか。学校側が把握しているのか、「嫌な思いをしている」ということを親だけで完結していないのでしょうか。</p>
教育振興課長	<p>はっきりとした数字は持ち合わせてございませんが、家庭内でそういった相談があることについては、お子さんもしくは親御さんが学校へお知らせすることが必要という認識はされておりますし、学校でそのような報告があれば、学校内での対応が取られます。また、学校の担任のみならず、スクールカウンセラーを配置しておりますので、困りごとなどを相談しやすい環境になっております。</p>
斉藤町長	<p>他にはございますか。</p>
三熊委員	<p>一度不登校となった方について、何かしらの対策によって復帰される方は若干名でもいらっしゃるのでしょうか。</p>
学校教育班主幹	<p>はっきりとした数字は持ち合わせておりませんが、一時的に不登校状態があっても、再び登校できるようになっているお子さんもいます。毎日だけでなく週3日など自分のペースで復帰しているお子さんがいる状況です。</p>
心の教育担当主幹	<p>不登校状態というのは、小学校と中学校と高校をまたぐこともしばしばあります。中学校は登校できなかったけども、高校に行ってすぐよく元気にしている</p>

町長	<p>子どもいます。</p> <p>地元には高校があるおかげというのものもあるかと思えます。 いじめ・不登校問題については、従前からの課題ですので、今後も対策を進めてまいります。</p> <p>次に、教育支援センターの設置についてです。先日、次年度以降の不登校問題への対応として、教育支援センターの設置にむけて教育委員会から相談を受けました。不登校問題については、一過性の場合もあるかもしれませんが、子どもを取り巻く様々な外的な要因が影響することもあります。マスコミでは「フリースクール」という言い方もあるので、皆さん聞いたことがあるかと思いますが、こちらを整備することで、不登校のお子さんが要件をクリアすれば、校長先生が出席したとすることができるこちらの制度について検討させていただければと思います。事務局から説明を行います。</p>
教育振興課長	<p>教育支援センターの設置について資料2に基づき説明。</p> <p>まず初めに、不登校児童生徒への支援のあり方という資料でございますが、文科省としても不登校児童の対応としましては、学校に登校するという結果のみを目標にするのではなく、児童生徒がみずからの進路を主体的に捉えてしっかりと実施することを目指す必要があるという考え方のもと、不登校のきっかけや継続理由に応じて適切な支援や働きかけを行う必要があるという観点から、1つの対応として教育支援センターを通じまして学習状況等に応じた指導配慮を実施するような体制ということで組織的な支援体制を整えていきたいと考えているところです。この支援センターが、不登校児童生徒とその保護者を支援するネットワークにも繋がっていくということが期待できます。また、この支援センターの中で、一定の学習等を行うことによって、学校長が指導要領で出席扱いにすることもできることもあり、今年度の教育行政執行方針にもお示しし、この教育支援センターに係る検討を重ねてきております。</p> <p>概要としましては、町内に不登校中の児童生徒の方が近年、増加傾向にあるということで、子どもの学習環境などをしっかりサポートしていく必要があるということもあり、センターの設置を検討しているところですが、管内でいいますと、主要な市には設置されており、この令和4年度には美瑛町、東川町でも設置が進められている状況です。町立学校の不登校児の生徒数の推移というところで、令和2年度において中学校の不登校の生徒の割合が9.16%ということで、全道的に見ても当町の不登校の割合は、高い状況になっているところです。必要性等も記載してございますが、学習面のみならず、不登校のきっかけとなるような初期段階の部分の予防的アプローチだとか、実際不登校になった</p>

	<p>場合も、相談・学習体制をしっかりと取っていくためには、なかなか学校だけでは対応しきれないということで、専門の人員を配置していきたいと考えているところです。カウンセラー、指導員等の配置をすることで、不登校生徒の学習や相談等にもしっかりと対応できればということで今後も検討をさらに加えてまいります。</p>
町長	<p>これについて、皆さんから何か質問等はございませんか。</p>
林委員	<p>子どもたちが不登校になる原因には、様々な問題があると思います。それを義務教育の小・中学校の先生方がそれに向き合っていくには、難しい部分もあるかと思います。このセンターがあれば、寄り添って子どもたちの話を聞いてあげられるのではないかと思います。私達も不登校の子どもたちの気持ちが分かるかと言われたら正直分からないですよね。ただ、保護者の方の気持ちでしたら分かるなど。子どもが学校に行かないとなると親御さんとしてはものすごい心労だろうなと思います。支援センターがあって、子どもがそこに通うことによって子どもやその保護者が少しでも安心できるようになればと思いますので、上富良野町でもぜひ取り組んでいただきたいです。</p>
町長	<p>私たちが小さい時は、これ程問題ではなかったのですが、そういったものをケアするためというか、基本的な問題解決に向けて何かしなくてはならないというのは、私と教育委員会と共有している部分であると思います。</p> <p>他に何かございますか。</p>
久保委員	<p>自分の子の同級生に不登校の子がいて心配しています。10%近い割合というのはとても多いと思います。今後減ることが望ましいですが、おそらく状況的に増えていくのではないかと思います。今の小・中学校に行けないことで人生が終わってしまうわけではないので、こういったサポートしてくれる施設は必要だと思いました。</p>
町長	<p>義務教育が終わった後の人生の方が長いので、学校に戻るようになれば良いのですが、自分で勉強して高校に行きたいと思ったときにサポートする等、これからの人生に繋げていけるような施設になればと考えております。</p> <p>他にはございますか。</p> <p>(委員から意見等なし)</p>
町長	<p>このセンターの設置については予算の関係もありますので、成立する頃には皆さんに具体的にお知らせできると考えております。</p>

<p>教育振興課長</p>	<p>次に部活動の地域移行についてです。学校の先生の働き方改革等もございまして、特に向こう3年間ですが、既に動きがありますので、その辺りの情報について事務局から説明いたします。</p> <p>現在の上富良野中学校の部活動の状況ということで、一覧という形でお示ししているところです。中学校においては、スポーツ・文化の活動がそれぞれ取り組まれておりまして、17名の顧問の教諭がつきまして、228人の生徒が活動を取り組んでいる状況です。令和5年度について、文化部は、書道部と美術部が合わさっての部活になる予定と聞いているところです。</p> <p>中学校の部活動と地域に関わりのある団体ということで、町内にはスポーツでいきますとスポーツ協会、また文化でいきますと文化連盟、あとはスポーツ少年団という関連する団体があります。スポーツ協会については、中学の部活動とリンクするというか、同様のスポーツ活動の登録は現状ない形になっております。</p> <p>文化連盟については、吹奏楽部と関わりある部分はありませんが、その他の部については連携できるものがあります。</p> <p>地域移行につきましては、スポーツ庁と文科省になりますが、それぞれが地域移行にということで今年検討会議にて提言が示されまして、今後休日の部活動から段階的に地域移行を目指していくということです。令和5年度から令和7年度までの3か年を集中的取組期間ということで示されております。教育委員会においてもこれらの情報を収集する中で、沿線市町村と連携し、研修等に参加しながら進めているというのが今の段階であります。どのように進めていくことが良いのかを、引き続き地域、関係団体や機関と相談しつつ、富良野沿線など大きなくくりで考えながら進めてまいります。</p>
<p>町長</p>	<p>部活動が段階的な地域移行を図るということですが、懸念される部分としましては、指導者がいるのか、富良野圏域でないとそもそもチームが作れないのか、それらを考慮しなくてはならないのですが、皆さんから質問等はございますか。</p>
<p>林委員</p>	<p>地域にスポーツ協会の登録がないということですが、中学校の部活に対する協会の話で良いですか。</p>
<p>教育振興課長</p>	<p>そのとおりです。</p>
<p>林委員</p>	<p>卓球はありませんでしたか。</p>

教育振興課長	以前、卓球協会はありましたが、今はありません。愛好者はおられると思いますが、組織としての活動は無いと思います。
林委員	昔、中学生が卓球の部活が終わってから、協会の指導する上手な方が教えていたのですが、中体連等では、その教える人も一緒に指導して頂いていました。
教育振興課長	卓球について、スポーツ協会に所属する組織団体のような形ではないということで、愛好者の方々は継続しておられます。
四釜委員	先生が日曜日も教えたいというような熱心な先生がいる場合は、継続的に指導をお願いできるものでしょうか。
教育振興課長	その辺りも含めてなのですが、先生が活動に関わらないということではなく、一つの形だと思うのですが、先生方も一旦教員という立場から離れて、休日に地域での活動に指導者として関わっていくというスタイルはあると思います。ただ、先生方の働き方改革の側面もありますので、そこに強制力はないとは思っております。その辺りを含めてどのような形が良いのかなんかということは模索していくことになるかと思えます。部活動に熱心な先生方はたくさんおられますので、今後検討していく必要があると考えております。
町長	他にはございますか。
三熊委員	先日、研修会がありまして、部活動の指導のために先生になった方や、全てを民間に委託して良いという先生もいらっしゃるのですが、その辺りでどのように振り分けていけばよいかということがありますが、活動に積極的に関わりたい先生は参加しやすい仕組み作りをしていく必要があるかと。講師の大学の教授も何が正解か全く分からないということをお話しされていました。
町長	地域毎に条件も違ってくるので難しい問題だと私も思います。指導者がいるかから始まって、様々なバックグラウンドも含めて地域によって違うので、何が正解かというのは難しいと思います。令和5年度から段階的にということですが、まだ教育委員会の方でもこれというものがないと思いますので、地域の方々々と相談しながら、何が出来るのか出来ないのかも含めて進めていかなければならないと思っています。
教育長	子どもたちの多様性の中で様々な活動支援できる仕組みを構築したいと考えています。スポーツでいうと勝ち負けや強い弱いで判断するのではなく、様々な子がスポーツや文化に触れることができるような仕組みにしてほしいという



	<p>のが一つです。また、これまでの部活動については先生に全てお任せだったということを私達も認識して、先生にもできることをお願いするし、できないことは、行政を含めて考えていくということが課題であることを認識してまいりました。教職員組合もありますので、先生方の認識も少しお聞かせいただきたいと考えています。先生方も数年で異動があり、今の先生が出来るから良いのではないと認識しながら、子どもたちが様々なことを体験し、スポーツ・文化に触れることが出来るように進めていかなければいけないと認識を新たにしていきたいと思っております。</p> <p>海外では様々な活動に挑戦することが出来る環境が整っていますが、日本では1つのことを始めたらそれをやり続けなくてはならない。小学校で一生懸命やってきたことを中学校でいきなり新しいものに変えて活動を始めると、なんとなく周りの目を気にすることもあるので、大人もそのような考えを直していかななくてはならないと感じました。1つのことを続けていくことも良いことですし、様々なことにチャレンジすることも良いことであると認識しながら、教育委員会としても気を引き締めて進めてまいります。</p>
町長	<p>部活動イコールスポーツというイメージがあるかと思いますが、文化的なものについては、結果難しい部分もあるかと思うので、本当に地域の協会とかサークルに小・中学生の力でも入っていけるような環境があれば、皆さん体験・経験が増えて、部活動があれば良いのですが、それ以外の多様なものが町にあっても良いのではないかと思います。</p>
久保委員	<p>部活動を委託するとしても、先生が児童生徒に関わり持つことが重要で、先ほどのいじめの問題にもつながるのですが、教室の中だけでなく部活動においても先生のサポートが必要かと思えます。</p>
町長	<p>私もそれについては危惧しておりまして、部活動は勝利も重要なのですが、教育の範ちゅうですね。先生がその部活動の経験者でなくても、監督として指導者としての経験があるかと思えます。そのような経験が数値化された免許証のようなものはもちろんないので、どうしても経験者というだけに頼ってしまいがちですが、そうすると先生が入っていけなくなってしまうので十分注意しないといけないと思っております。</p>
教育振興課長	<p>少し補足がありまして、中学校の部活動の位置づけはないのですけれども、実際は少年団の延長の部分で地域の方々が指導者となり、引き続きそのスポーツなどに取り組んでいるお子さんについては、中体連などの大会については、中学校の先生が顧問として一緒に参加している実態がありまして、男子バレー・女子バレーは中学の部活動にないので、富良野西中学校と合同で練習しな</p>

	<p>がら大会に参加しております。バドミントンや冬場でいくとクロスカントリーやアルペンスキーが地域の指導者がついて、大きな大会があれば、中学校の部活動の一環として参加しております。地域移行の一つのチームの指導というスタイルではあるのですけれども、個人の方々の協力があるのスタイルということで理解していただければと思います。</p>
久保委員	<p>位置づけない中で、柔道はなくなってしまったのでしょうか。</p>
教育振興課長	<p>先ほどのスポーツについては、中体連に参加しているかどうかというところで把握しておりましたので、柔道についても引き続き少年団延長の部分でされております。</p>
教育長	<p>私どもが中学校と資料を作成した中で、部活動の位置づけがあるものについては先生方に委ねている、位置づけがないものについては地域によって支えられていると思っております。特に剣道と柔道は、町のスポーツ協会が加盟している連盟が底力となり、卓球についても指導に当たっていただけていたところでしたが、高齢化により運営が難しくなり組織的な解散となりましたが、地域に情熱の持っている方がいらっしゃるの間違いないので、そういうところにも皆さんと各団体を通じて、地域移行を模索していくことになるのだろうと認識しております。柔道については、大会に参加する方が出てくれば対応できるかと思っております。</p>
町長	<p>習い事でいいますと書道ですとか、スポーツで言えば、水泳が旭川や富良野にありますね。順次段階的に移行していくことですので、これについては何か決まりましたら皆さんにお知らせしてまいります。私も関心を持って考えていきたいと思っております。</p> <p>最後になりますが、給食センターの今後の運営についてということで、資料はありませんが、施設が古くなっており今後どのようにしていけば良いかと考えております。所管は教育委員会ではありますが、実際は富良野広域連合で給食業務の運営をしております。現在は、富良野、上富良野、南富良野の3ヶ所ありますが、将来的に富良野1か所になるのか、それとも自賄で建て直すのか、それとももっと別な方法があるのかというのを広域連合の計画では、令和5年度に見直しをし、6年度から5か年で策定することとなっております。前町長時から考えていたところでしたがなかなか答えが見つからず、私も全てのあらゆる可能性を排除しないよう検討しているところです。</p> <p>給食センターの今後のあり方について、皆さんからご意見等ございましたら、ぜひお聞かせ願いたいと思っております。</p>

林委員	<p>施設が老朽化しているということで、お金のかかる身勝手なことを言うように申し訳ないのですが、やはり地域で作ったものを子どもたちに食べさせてあげたいと思います。施設等が段々と統合されたりしていますが、上富良野で維持できるものがあれば、存続していくのがよろしいかと思ひます。</p>
町長	<p>他にござひますか。</p>
三熊委員	<p>やはりお金がかかるということで、今後において児童生徒の推移を考えるとどんどん減っていくことを考えるとどうなのでしょう。</p>
町長	<p>新しく生まれる赤ちゃんが年間 60 人くらいとなっています。将来的には 1 学年が 60 人くらいとなり、高校生まで合わせても 500 食ほどになるのかと思ひます。</p>
教育振興課長	<p>現在は、上富良野高校にも提供しているということで、900 食分の提供数となっております。施設の規模としては、約 1,200 食が提供可能と言われております。</p>
町長	<p>今後、富良野も同じように提供数が減っていきますので、アプローチあるかと思ひますが、答えが出なければ継続的に検討を重ねていかなければなりませんので、皆さんからご意見等を聞いて反映できるものについては、計画に反映していきたいと考えております。</p>
三熊委員	<p>現在、給食センターは、どの程度まで使用できるのでしょうか。</p>
教育振興課長	<p>昭和 54 年の建物ということで約 42 年経過しております。建物の躯体だけでいきますと鉄筋コンクリート造で 60 年が寿命と一般的には言われておりますことから、あと十数年といったところで見ています。</p> <p>設備関係も計画的に更新していかなければなりません。特に、衛生面の部分についても新しい形に更新していかなければならないと考えております。それには、多額の費用を投資しなくてはならないということで、数字を拾い上げている段階です。今後の投資もしくは建て替え、また他の手法も含めて、計画策定に向けて議論できる資料作りを進めているということでご理解いただきたいと思ひます。</p>
教育長	<p>留萌市が給食センターを民間である生協の「スクールランチ」を提供するよう進めるというのが、北海道新聞の一面に掲載されていたこともありまして、</p>

	<p>上川管内においても愛別町が提供していただいているということです。予算の打合せにて、年間維持コストや給食調理員を募集しても人が来ないという運営の課題を確認しているところです。働いてくれる人がいない中で施策だけを持っていることは課題だという話は内部でもされておりまして、今後の給食センターのあり方について、町長から教育委員会として教育委員さんとともに検討してもらおうよう指示をいただいているところです。今後の教育委員会の中でも協議させていただきたいと思います。子どもの数の推移も踏まえて委員さんと共有しておりますので、新しい手法については、教育委員会協議会の中で情報を共有させていただき、広域連合とも情報共有してまいりたいと思います。</p>
町長	<p>その他の方法というのは、今申し上げた「スクールランチ」もありますし、昔に戻ってお弁当というのも否定しません。様々な角度から考えて検討していくよう教育委員会に指示しているところです。</p>
林委員	<p>子どもが段々減っていくような話ばかりで寂しい思いもありますが、上富良野町も住民が多くなるように頑張っていただければと思います。留萌市や南富良野町、三笠市などのように民間企業をどんどん入れて、地域を活性化してほしいと思います。</p>
町長	<p>社会福祉協議会の配食サービスも一緒に作れないかですとか、そういうことも組み合わせて何ができるのか精査しながら考えていきたいと思っております。</p> <p>他に何かありますでしょうか。</p>
四釜委員	<p>希望ですが、地元にあるのが1番かなと思います。</p>
町長	<p>地元にあるというのは、雇用と食材において重要な要素であることは認識しております。</p> <p>11月から予算編成の時期となり、年があけて1月の末には町長査定が終わり3月に議決されることになると思いますので、教育委員会を通じて情報を提供してまいります。</p>

8 閉会宣言 14時55分

上記会議の経過は、書記の調製したものであるが、その内容の正確なることを証するため、ここに署名する。

令和4年11月10日

上 富 良 野 町 長

上富良野町教育委員会教育長